

寒くなく（少し肌寒かったり）暑くなく（日中、汗ばむこともあります）首をすくめる寒さからは解放されました。洗濯物がパリッと乾いて気持ちがいいですね。ご近所の植木鉢のパンジーや桜草、ツツジも咲きだしました。ゴールデンウィークを迎えました。特にホームとしての行事はありませんが、一日の生活の流れを変えることなく、ゆったりとした時間が流れているように感じます。ゆんたく・なんくるの子どもたちは学校やバイトで外に出ることも多く、「熱が…」「お腹が…」「咳が…」とまたまたコロナかと心配することもありましたが、ホームで準備している「抗原迅速検査キット」でマイナスを確認したりして乗り切りました。スタッフのメンバーもコロナに罹患することもなく過ごせています。スタッフには日頃の健康管理をしていただき感謝しています

『食について一食でも孤食でもない「縁食」とは』 パート2 藤原辰文さん

食を無視した経済学が支配している：「アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？」という本を読んですごく心が揺さぶられました。アダム・スミスは経済学の父と呼ばれる人です。彼はパン屋とか肉屋とかの善意で世界が成り立っているのではなく、彼らが利益を求めるところから世界が成り立っているのだと、利己的で社会にも環境にも依存しない“自立した男”をモデルに経済学を論じました。

歴史上では男ばかりが登場して女性が出てこない背景や原因は、歴史学では食べ物あまり重視されてこなかったからだということが、後付け的にわかってきました。食文化の伝授は多くの部分を女性たちが占めているという事実と、もう一つはお漬物を漬けたりといった技を子どもに伝えることで、母と子の間に師弟関係のようなものが存在していたが、現在は買う時代になり、家庭問題の一因にもなっているのではないかと。食に関しては、女性の存在がとても大きいのだと改めて認識しました。男性たちが、食の継承は女性がやるべきものと押し付けてきたわけです。今の社会問題が起こっている理由の一因に性的役割の強制があります。地域のコミュニティが壊れつつあるなか、地位や肩書、性別に関係なくすべての人に平等にある「食」を使って新しいコミュニティのひとつのかたちになろうとしているのが、子ども食堂と言えないのではないのでしょうか！



ゆんたくホームのゆんたくさびら

(おしゃべりしましょう)

進級や進学で新たな生活が始まりましたが、ゆんたくの子ども達はとても元気に過ごしています。Aちゃんは4月から新しくアルバイトを始めました。自分にあったアルバイトを見つけられたようで、スタッフもとても嬉しく思っています。朝早く行ったり、夕方から行ったり、とてもよく頑張っています！！

そして、夕食中にはそれぞれの学校の話や、趣味の話で盛り上がっています。アルバイト等で全員が揃って食べられない日もあります。お互いに意見を言いあったり、褒めあったり…夕食の時間はとても良い団欒の場になっているように感じます(^_^)



なんくるはなんくるないさ〜

(なんとかなるよ！)

♪5月になり、進級や進学によって始まった新しい生活にも少しずつ慣れてきた様子です。通学時間が長いAちゃんは、帰宅した時にはとても疲れた表情になっていることもたくさんあります…それでも毎朝しっかり起きて、学校やバイトに行く姿にはとても感心しています。気温が上がり汗ばむ日もあれば、まだまだ肌寒い日もあり、気温の変化が大変なことだったのか、4月は少し体調を崩す子もいました。しかしすぐに回復し、今ではみんな元気に過ごしています。学校にバイトに遊びに…と大忙しの毎日を送っている子ども達ですが、体調に気をつけながら貴重な学生生活を楽しんで欲しいです！！





らいげつ らいげつ あんない あんない
来月のキッチンゆんたくのご案内

2022年

6月16日 (第3木曜日) かいさい 開催

よてい よてい
 予定メニュー

- ・ゆんたくカレー
- ・サラダ



5月のキッチンゆんたく

メニュー♪

- ・ゆんたくカレー
- ・サラダ

夕方5時～なくなり次第終了 しだいしゅうりょう

☆子ども…50円/大人…100円 えん

かんせんたいさく りゅうい かいしよく
感染対策に留意して会食とテイクアウト
りょうほう かいさい
の両方で開催します!

なくなり次第終了です。早めに来てね♪ はや

くるま らいじよう
 ※※お車での来場はできません。※※

とほ じてんしゃ ご
徒歩もしくは自転車でお越しください

Thanks

きんりん かいしゃ きま 近隣の会社K様より きんいっふう い 金一封を頂きました。また、きようときま フードバンク京都様から かし お菓子・ペットボトルの みず 水・たま カレールウ・い 玉ねぎを頂きました。
みなさま 皆様、いつもありがとうございます。

Thanks♪



かみしげい えほんしょうかい
 紙芝居・絵本紹介

『おおきなかぶ』

再話： A・トルストイ

訳： 内田 莉沙子

画： 佐藤 忠良

「うんとこしょどっこいしょ」のフレーズが繰り返されるお馴染みの絵本!

むかしばなし ロシアの昔話をトルストイが再話にしたものを、さいわ 佐藤忠良画伯が素晴らしい絵を描きました。おお 大きなかぶをみんなで力を合わせて抜くという単純な物語の中に、ちから あぬ たんじゆん ものがたり なか おお 大らかさ、ちからづよ 力強さ、み あふ ユーモアなどが満ち溢れ、みんわ ロシア民話の楽しさを味わわせてくれます。

<あらすじ>

おじいさんの植えたかぶが、あま げんき 甘くて元気のようにとてつもなく大きいかぶになりました。おじいさんは「うんとこしょどっこいしょ」と掛け声をかけてかぶを抜こうとしますが、かぶは抜けません。おばあさんは孫を呼び、孫は犬を呼び、犬は猫を呼んきますが、それでもかぶは抜けません。とうとう猫はねずみを・・・やっとかぶは抜けました。

いぜん 以前に紹介したウクライナの民話「てぶくろ」(さまさま どうぶつ なかよ く 様々な動物が仲良く暮らす話)と今回紹介の「おおきなかぶ」……
にさつ この二冊の絵本がロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まってから、かんしん たか 関心が高まっているとのこと。